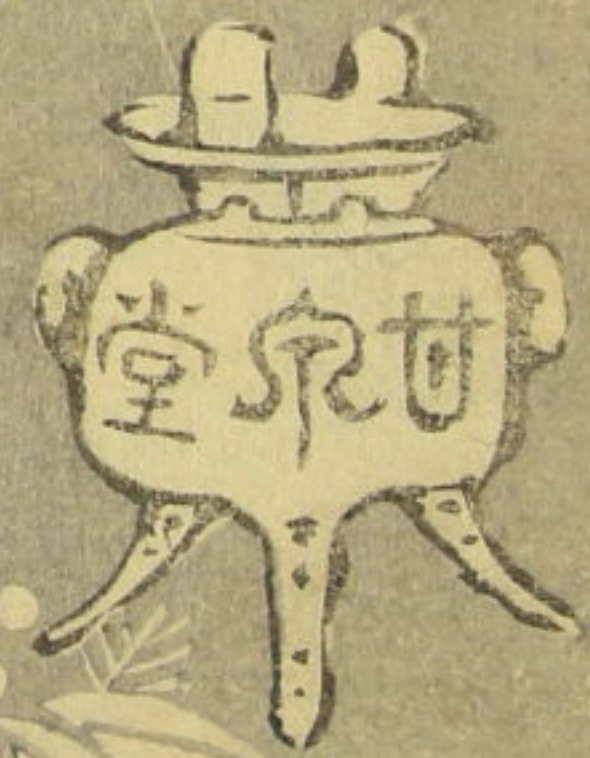


3811
30

兒雷也

豪傑譚

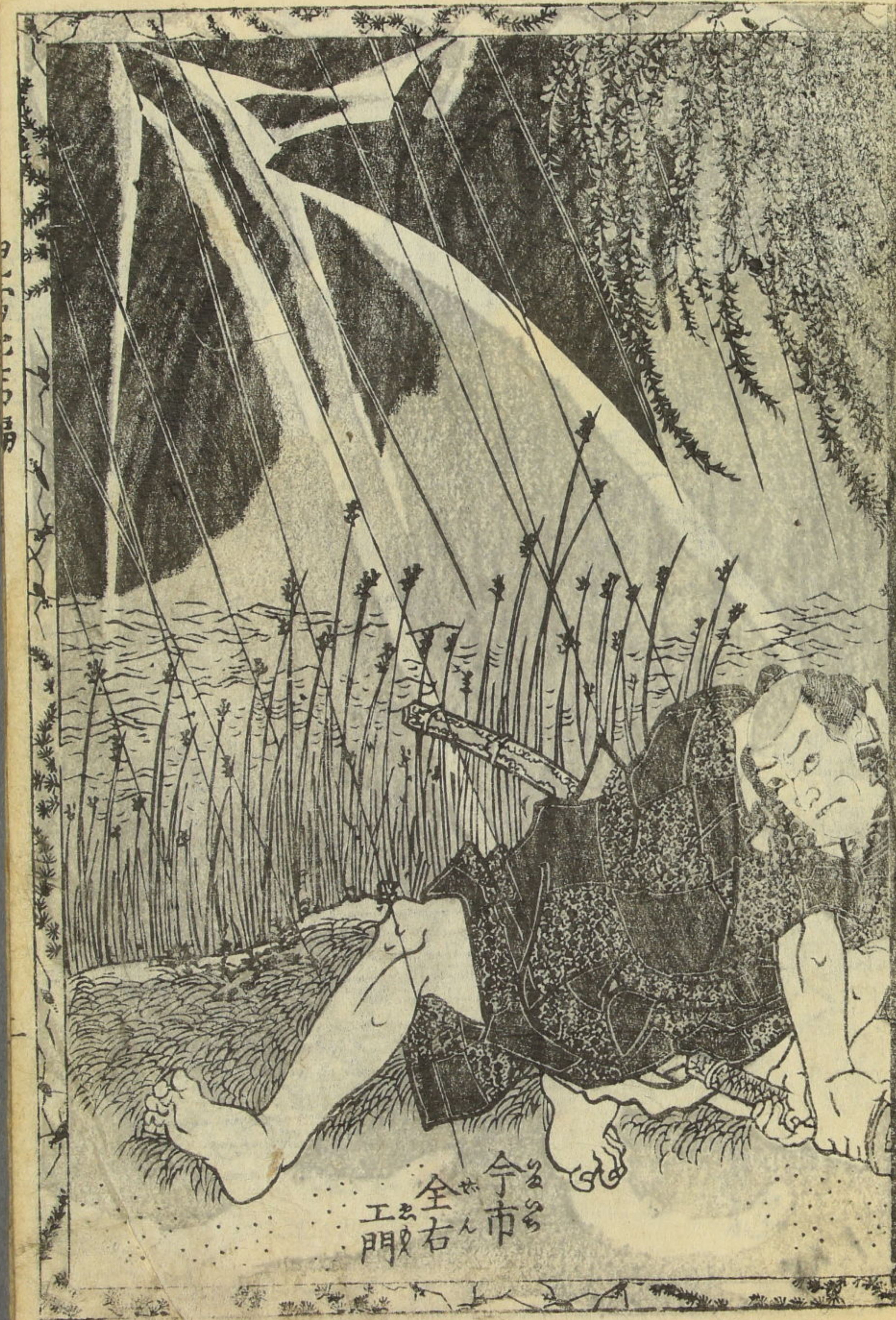


柳下亭種員作 廿四集 上冊

或曰此稗史の大蛇丸が蛤輸の短劍を忍び事あり又兒雷也が鱗
形の大刀を忍由を作ま一書中み同趣向のあり如何と難問されや
予應之て曰水滸傳み姦夫淫婦を戮する話而談あり武松石秀等の
傳是の源氏物語み閨房を潜びて別人とちがる更而談あり光君が空
蟬の臥床ののび軒場秋とくらふと白宮が宇治の大姫の寐所へ
潜びて中の君と契りくらふ是なり彼は唐山無類の小説此は皇朝み
無双物語をれとて同條と出せり況無根野乘争避忌と成えんと言
ふ牛カを用ひの常言の未也雀を射は鎮西の御曹子と請九尺二間の
家を造み飛彈の内匠を雇ふ等といひら笑ハ客も亦ともい咲ふ
餘談ふるはるぬ

嘉永甲寅新春 柳下亭種員記

三



今市
全右
工門



雨田
甚三郎
実ハ兒雷也



於花



茜涼
半七

山崎屋の唯



勇婦
綱手

岩倉七九郎



岩倉
道全



中
この
あつた

下
この

下
この



上
この

上
この

上
この

上
この



山奥の龍窟

下



龍窟の山奥

上

山奥の龍窟
龍窟の山奥
龍窟の山奥
龍窟の山奥
龍窟の山奥
龍窟の山奥
龍窟の山奥
龍窟の山奥
龍窟の山奥
龍窟の山奥

○山奥の山奥
山奥の山奥
山奥の山奥
山奥の山奥
山奥の山奥
山奥の山奥
山奥の山奥
山奥の山奥
山奥の山奥
山奥の山奥

大蛇丸信濃國高井郡の
山奥の龍王の龍
離魂の法を
修する体

中
山奥の山奥
山奥の山奥
山奥の山奥
山奥の山奥
山奥の山奥
山奥の山奥
山奥の山奥
山奥の山奥
山奥の山奥



又左のあつちのついでに
とひつて垢離にさう
ゆりのきりこ正七百連
理木城の柳とさう
徳澤木とさう
六天の魔王とさう
ふひのくつ物とさう
よりいふとさう

「あつちのついでに」
とひつて垢離にさう
ゆりのきりこ正七百連
理木城の柳とさう
徳澤木とさう
六天の魔王とさう
ふひのくつ物とさう
よりいふとさう

「あつちのついでに」
とひつて垢離にさう
ゆりのきりこ正七百連
理木城の柳とさう
徳澤木とさう
六天の魔王とさう
ふひのくつ物とさう
よりいふとさう

此大蛇を
松明の闇夜の
中ふらふらと
見ゆる



「あつちのついでに」
とひつて垢離にさう
ゆりのきりこ正七百連
理木城の柳とさう
徳澤木とさう
六天の魔王とさう
ふひのくつ物とさう
よりいふとさう

「あつちのついでに」
とひつて垢離にさう
ゆりのきりこ正七百連
理木城の柳とさう
徳澤木とさう
六天の魔王とさう
ふひのくつ物とさう
よりいふとさう



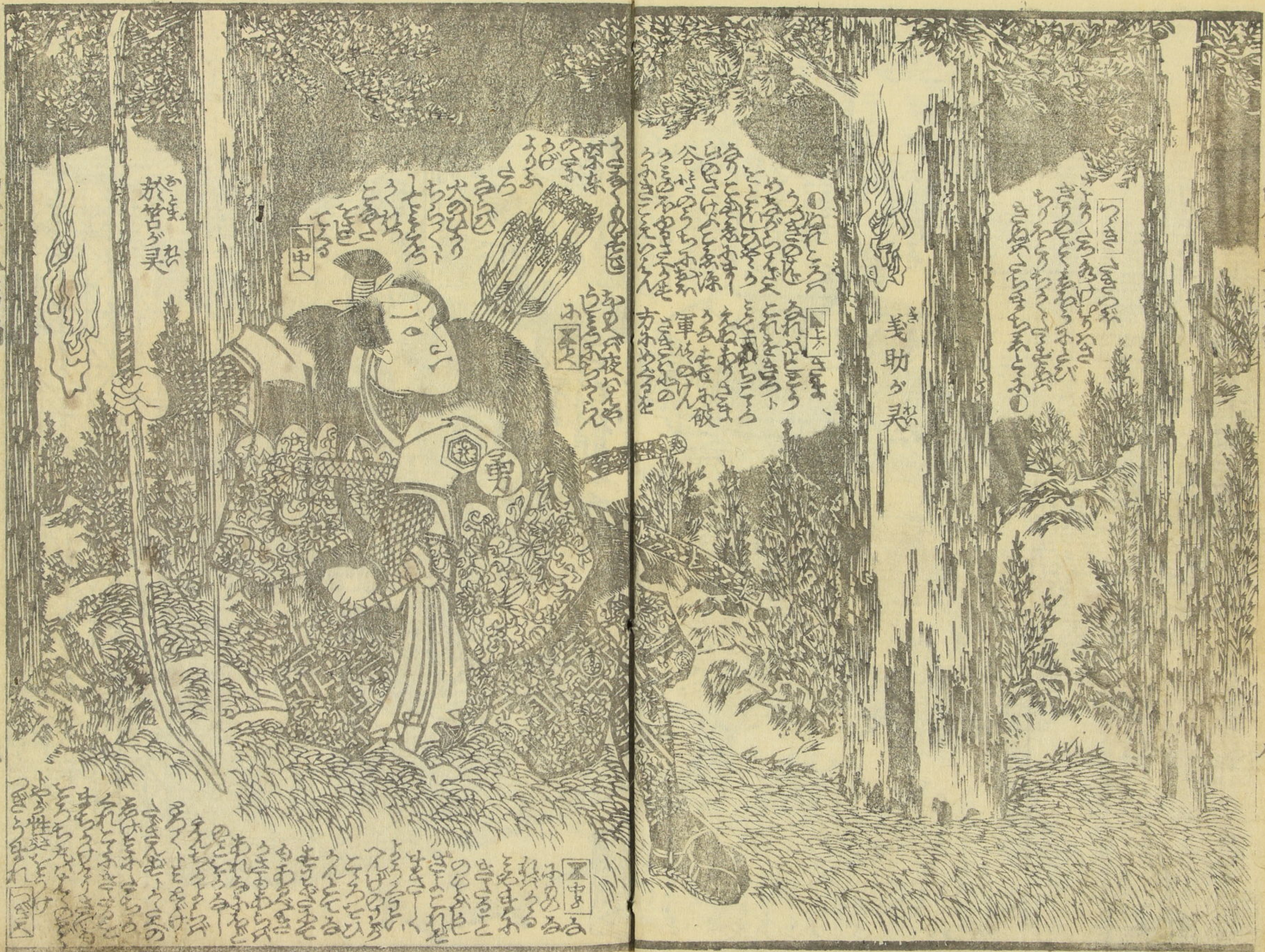
此の御鏡は天照大神の御魂を
照らすに御用ひたまはるる
御魂の御影を御照らすに
御魂の御影を御照らすに
御魂の御影を御照らすに

此の御鏡は天照大神の御魂を
照らすに御用ひたまはるる
御魂の御影を御照らすに
御魂の御影を御照らすに
御魂の御影を御照らすに



此の御鏡は天照大神の御魂を
照らすに御用ひたまはるる
御魂の御影を御照らすに
御魂の御影を御照らすに
御魂の御影を御照らすに

此の御鏡は天照大神の御魂を
照らすに御用ひたまはるる
御魂の御影を御照らすに
御魂の御影を御照らすに
御魂の御影を御照らすに



白雲七九號

○ 此の山は
 山崎の山也
 山崎の山は
 山崎の山也
 山崎の山は
 山崎の山也

美助少尉

○ 此の山は
 山崎の山也
 山崎の山は
 山崎の山也
 山崎の山は
 山崎の山也

○ 此の山は
 山崎の山也
 山崎の山は
 山崎の山也
 山崎の山は
 山崎の山也

○ 此の山は
 山崎の山也
 山崎の山は
 山崎の山也
 山崎の山は
 山崎の山也

美助少尉

○ 此の山は
 山崎の山也
 山崎の山は
 山崎の山也
 山崎の山は
 山崎の山也

美助少尉

安政三丙辰新板目錄

地本草紙問屋 芝神明前 和泉屋市兵衛版

踊形容花競

初編より十編まで當年出板

編者 柳水亭種清
画工 一陽齋豊國

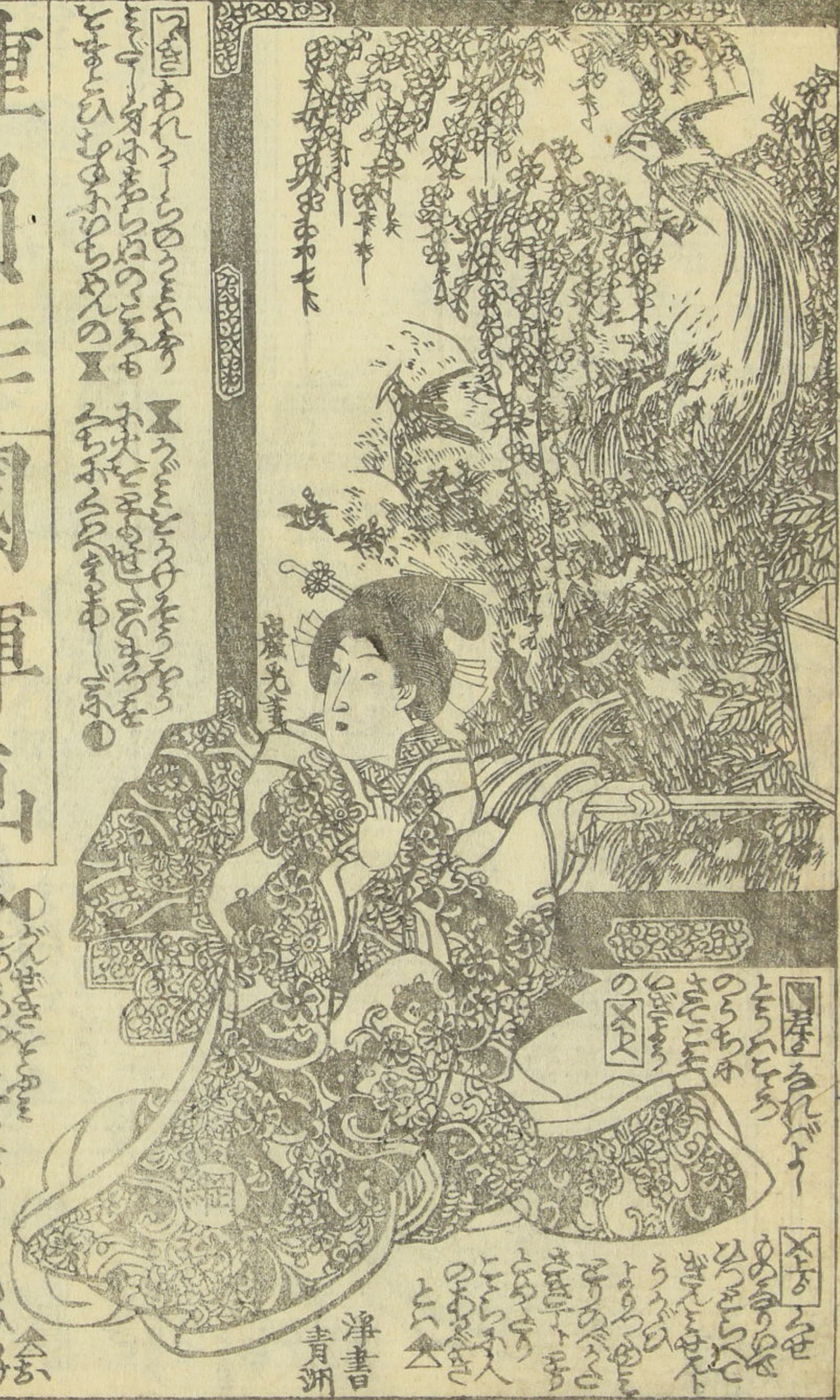
此はさういふ豊國が画ける多くの錦画を種清がさういふとらした項の
黒表紙に似たる品のそれらとて三都のうちのあがま錦画のよう
の、高評をうの八文舎をあぐろのあがま錦画の初編の時をもち
て追ひ、出板はるるのりとのあがまの程希上なり。板元敬白

及假古名一休草紙
柳水亭種清編
一雄齋國輝画
九編出板

女郎花五色石臺
同作
或盛画
七編
八編
九編

種員作國輝画

あれこれの種員作
種員作の種員作
種員作の種員作



浄書 青洲

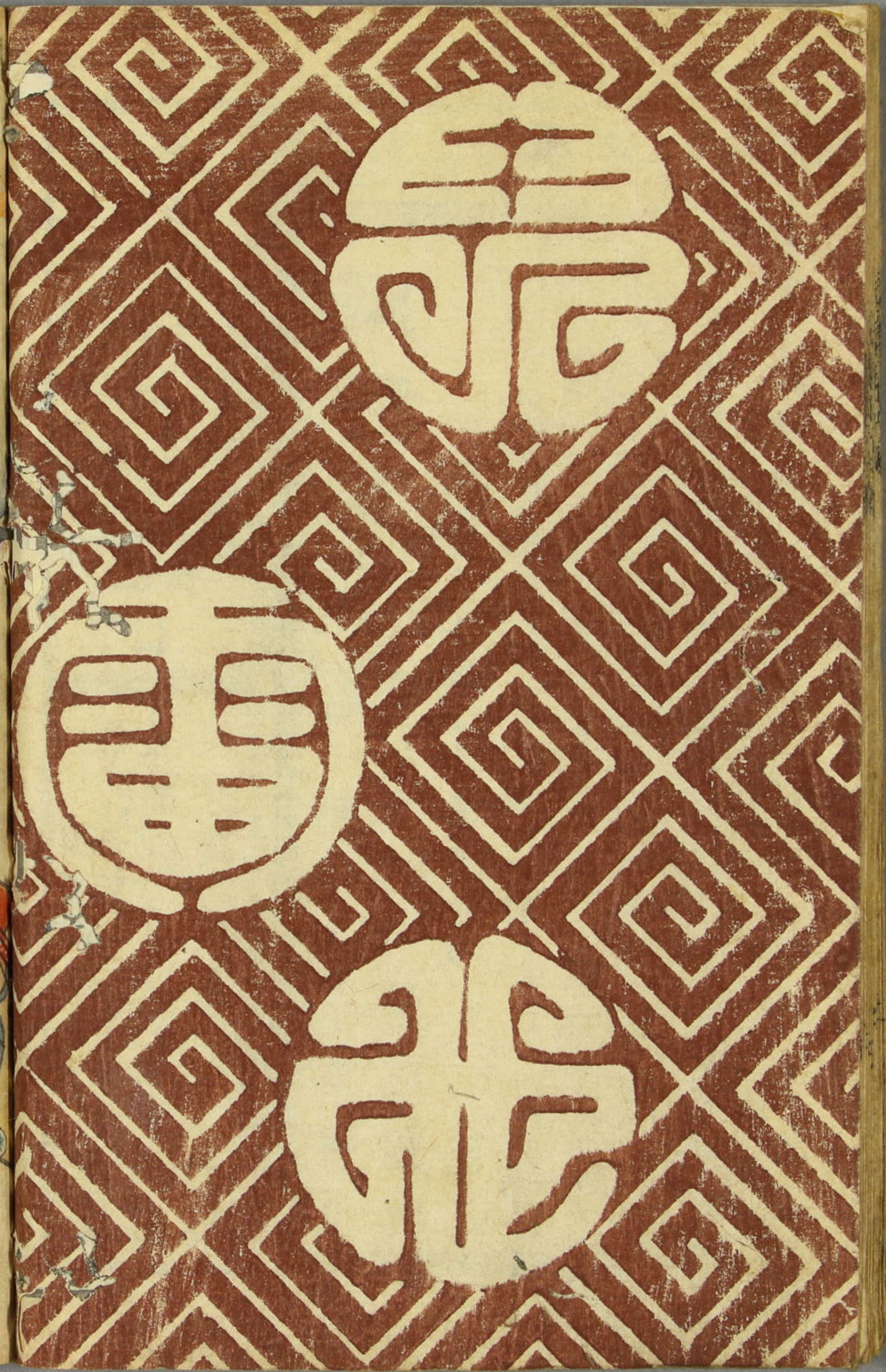
種員作の種員作
種員作の種員作
種員作の種員作

嘉永宣歲
正月發販
兒雷也
毫侖譚
廿四編



介題曲之圖也

下







此の如きもの
 見れば
 心も
 静か
 なる
 事
 あり
 けり

此の如きもの
 見れば
 心も
 静か
 なる
 事
 あり
 けり

此の如きもの
 見れば
 心も
 静か
 なる
 事
 あり
 けり



此の如きもの
 見れば
 心も
 静か
 なる
 事
 あり
 けり

Handwritten text in the top left corner of the left page, written in a cursive style.



Handwritten text in the bottom left corner of the left page, continuing the narrative or providing commentary.

Handwritten text in the top left corner of the right page, written in a cursive style.



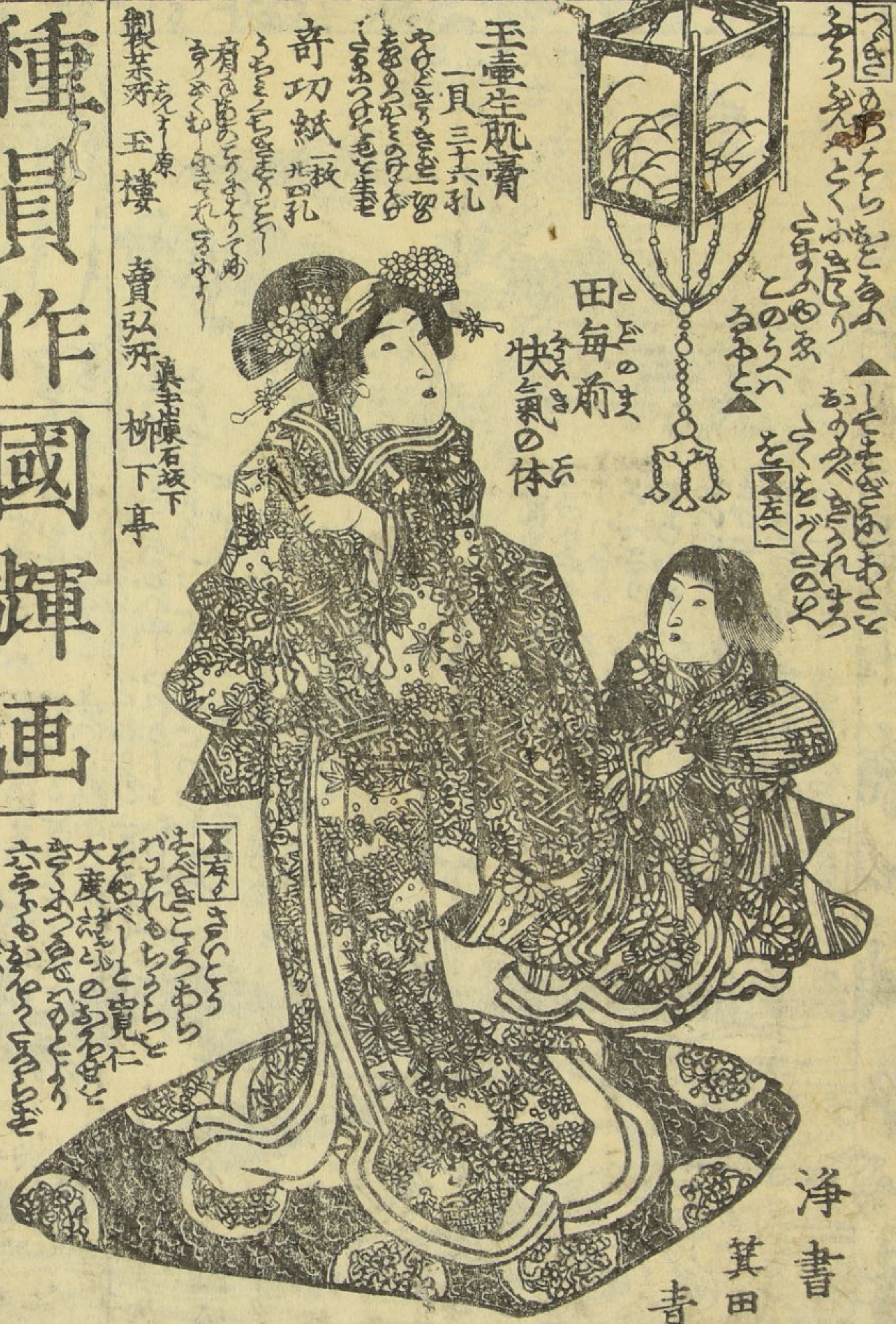
Handwritten text in the bottom left corner of the right page, continuing the narrative or providing commentary.

Vertical text on the right edge of the right page, likely a page number or chapter title.

嘉永六年癸丑孟春新雕

芝神明茶 甘泉堂 和泉屋市兵衛板

種員作國輝画



玉壺生肌膏
一月三六札
奇功紙一枚
田毎前
快氣の体
製薬所 玉樓 賣弘所 柳下亭

浄書
箕田
青洲

假名一休草紙

柳下亭種員作
一雄齋國輝画

初編ハ一休の神母公孝貞と云ふは、一休の神師結内おとせうらふ
り、此神田正徳が教席のふたむねと云ふは、條の事と云ふは、金侯ハ二編ハ
及び、ふ南て出立す、す、ふ、幼き頃の秘密九つ、わ、三編ハ
ふ、ふ、江州田の家、化、美史の流、方、と、ふ、の、探、と、説、四編、五編、と、
つ、ふ、て、高、年、く、り、の、に、は、神、の、事、に、は、言、海、の、く、れ、女、比、根、男、産、生、臨、
け、助、死、る、の、一、路、若、士、の、杯、と、拳、世、ハ、在、例、一、休、物、終、ハ、い、く、矣、
て、終、い、向、向、く、再、あ、れ、ら、る、信、の、と、つ、り、合、き、く、七、編、小、供、の、り、
は、一、ら、ん、の、上、は、る、海、を、が、と、す、
板元敬白

三編より五編とある
を遺出板仕

